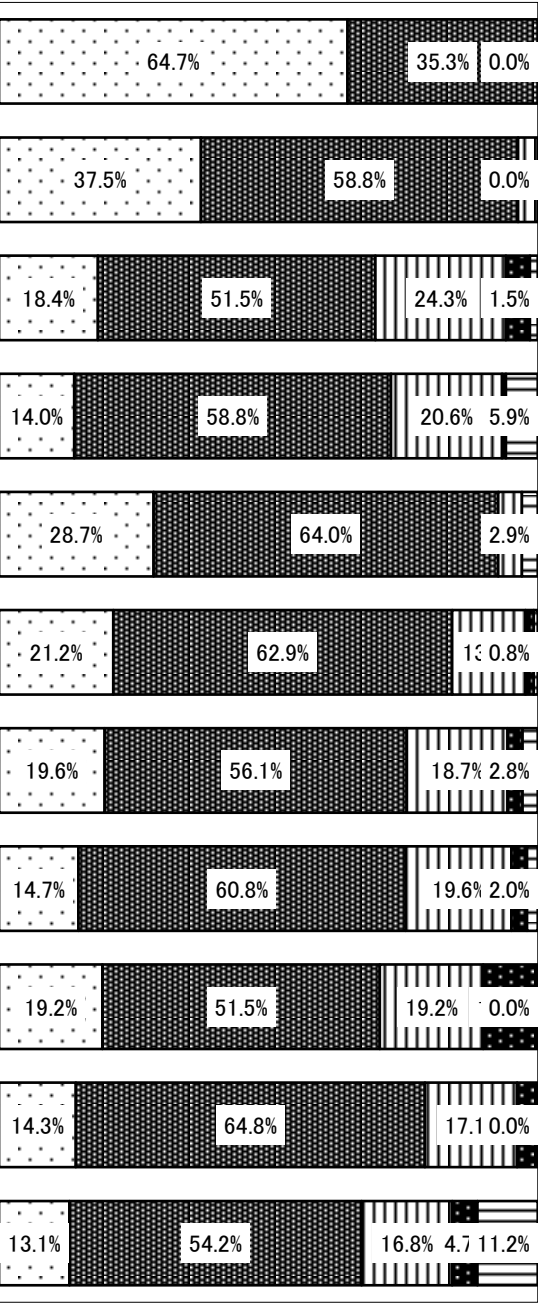
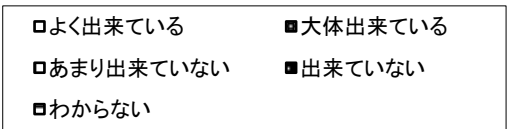


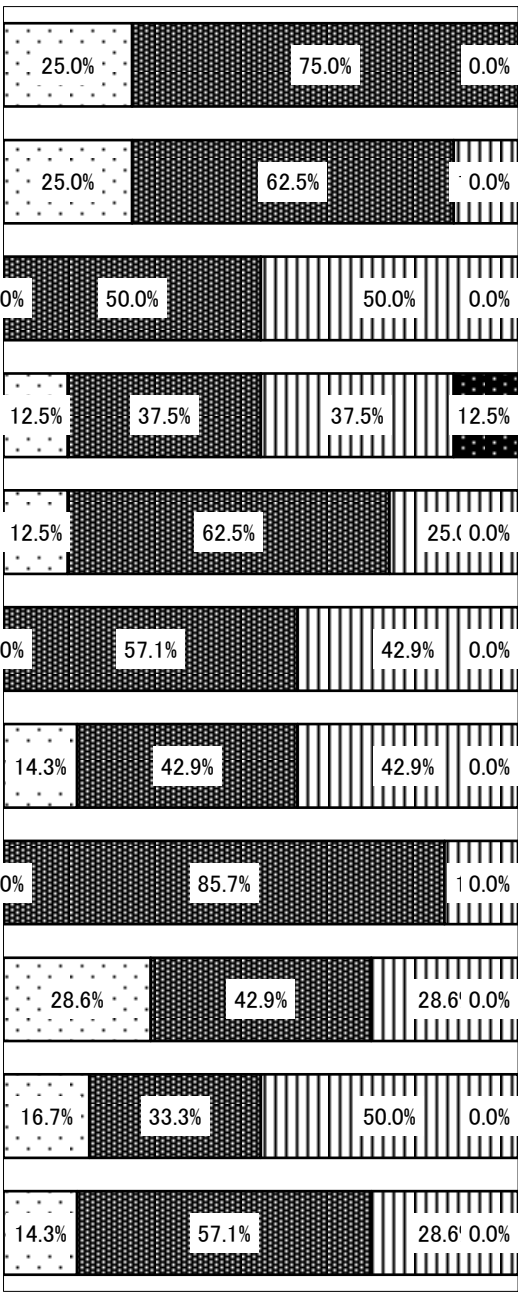
学校教育目標 『夢を抱き いきいきと輝く 横大路の子』

めざす子ども像 ○進んで深く考える子 ○思いやりのあるやさしい子 ○心も体も元気な子 ○最後までねばり強くがんばる子

保護者による評価



教職員による評価



学校運営協議会理事の皆様からのご意見

○「よくできている。」と「だいたいできている。」を合わすと子ども達も保護者も学校に対しておおむね満足な気持ちをもっている。

○教職員のみなさんは子ども達の力をもっと伸ばしたいという思いがある。個人の目標を明確にして、満足感や充実感をしっかりもたせるような工夫が必要なのではないか。

○地域で子ども達の様子を見ていても落ち着いた感じが見られる。

○いじめの問題など社会的な問題になっているが、学校だけに任せるのではなくて家庭での役割も重要になってくるのではないだろうか。

○子どもを育てるのは学校の取組や関わりだけではなく、家庭の、しつけによる部分が多い。家庭も、より一層学校と連絡を密にして、家庭での子どもの成長をしっかりと見る必要があると思う。

○学校・家庭の連携そして地域の見守りという中で、子ども達は健全に育っていくと思う。

横大路小学校だより

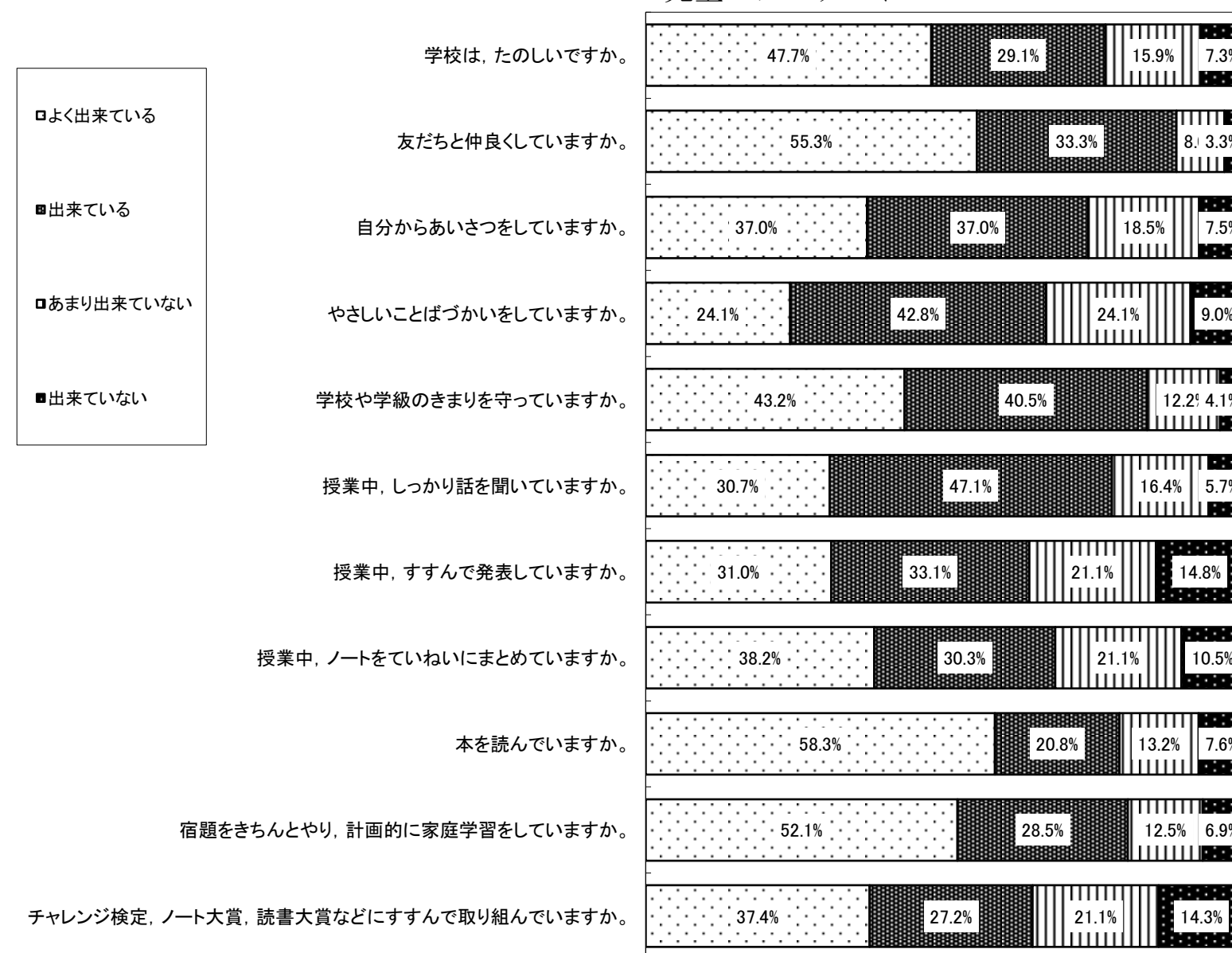
10月臨時号

平成26年10月29日
京都市立横大路小学校
校長 門田秀司

学校評価にご協力いただきありがとうございました。

集計結果をご報告します。今回保護者の皆様からは120名の回答をいただき、68パーセントの方のご意見を反映させていただいています。今後はより多くの方のご意見をいただけるように働きかけていきたいと思ひます。

児童のアンケート



学校でも取り組んでいます

○昨年度と比較すると、「学校は楽しいですか。」「あいさつをしていますか。」「やさしいことばづかいをしていますか。」については「できている。」と答えている児童の割合に大きな変化はなく概ねできていると言えますが、あいさつの仕方やタイミングについては不十分さがみられるので継続して取り組んでいきたいと思っています。

○「授業中進んでしっかり話を聞く。」「ノートをていねいにまとめる。」ことについてはよくできている、とだいたいできている、を合わせると多くの児童が「できている。」と感じていますが、「できていない。」と感じている児童の数も増えてきています。教職員の評価と比較して見ても「できている。」と感じられないところをとらえて、今後、日常的な取組の中で工夫していきたいと思ひます。またチャレンジ検定・ノート大賞・読書大賞などの取り組み方を改善することも課題に据えて、「できた。」と感じる児童や教職員の割合が増えていけるように取組を進めていきます。

ご家庭のご協力もよろしくお願いします

○学校では子ども達に「確かな学力をつけるために学力向上プランをつくり取り組んでいます。スキルタイム・読書タイムや算数科での少人数習熟度学習の実施により、基礎基本の学習の定着を図り学力を高め、そして「活用型」といわれる学力の向上をめざして努力しているところです。今回の評価を通して、なによりも普通授業の充実を図りたいと思ひます。

○次に「学校と家庭の連携」をより一層密にすることが子ども達の学力向上につながると考えます。まずは学校での取組を保護者や地域の皆様にきちんとお知らせするよう、学校・学年・学級便り等及びホームページ等の充実を図ります。そして、様々な子ども達の活動の様子をもとに保護者との懇談や話し合いをより多く行い、学校と家庭との連携を密に図っていきます。保護者の皆様もより一層学校に足を運んでいただければありがたいです。